

発展途上国の政治と社会

第12回:資源と紛争



資源の呪い(resource curse)

- 天然資源の多い新興国は、しばしば内戦に突入する
- 「宝の山に腰掛ける貧乏人」になるのはなぜか
- ナイジェリア(石油)
- コンゴ(石油)
- シエラレオネ(ダイヤモンド)

資源と内戦

- 資源への近接性
 - 希少な天然資源を政府が管理しようとする
 - 資源埋蔵地域の住民が政府の正統性を認めない場合
 - エスニック的差異の重なり
- 多国籍企業と資源
 - 取り扱いに高度な知識と技術が必要な資源の場合、多国籍企業が介入している

内戦による経済停滞

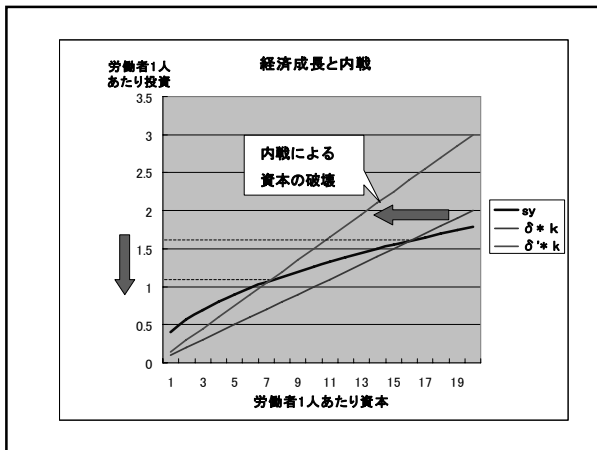
- 内戦は一国の経済に大きな打撃を与える
- 生産設備の破壊
- 人的資源の逃避
- カントリーリスクの増加

新古典派経済成長モデル

- ソロー・モデル
- 経済成長は労働者一人当たりの資本ストックの大きさに決定される
- 貯蓄、人口増加、技術革新が資本ストックに影響を与える
- 内戦は資本ストックを破壊する

ソロー・モデル

- 生産関数
$$Y=F(K,L)=K^\alpha L^{1-\alpha}$$
- 資本蓄積方程式
$$K\dot{=}sY-dK$$
- ふたつの式から基本方程式を導出する
$$y=k^\alpha$$
$$k\dot{=}sy-(n+d)k \text{ (微分方程式)}$$



資源の国有化はなぜ失敗するのか

- 資源を採掘・生産するための人的資本が不足している
- カントリーリスクが増加し、国際資本が逃避する(投資されない)
- 事後的に投資となる貯蓄が不足
- 価格が下落し、採算が合わない